

国際協力銀行における大学との連携

2006年10月

国際協力銀行 プロジェクト開発部

<http://www.jbic.go.jp/>



JBIC

大学連携の目的

- ◆ 多様化する途上国の開発課題への対応
- ◆ 円借款業務の理論的側面の強化
 - 大学が有する知の活用
- ◆ 円借款による途上国の人材育成の促進（留学生・研修生の受け入れ）
- ◆ 援助人材の養成・開発教育（国民の理解促進）
 - 大学の知見および教育機能の活用

JBICの体制、連携の実績

◆ 大学連携の専担部署

→ プロジェクト開発部 連携班
(ワンストップ機能、行内調整等)

◆ 大学連携の実績は急速に増加

	03年度	04年度	05年度
大学が関わる委託調査数	6件	14件	25件
うち大学が契約当事者の契約数	4件	12件	18件

大学との連携メニュー

1. 事業の形成、実施、効果促進等を支援する調査（SAF:有償資金協力促進調査）、その他調査
2. 事業・プログラムの事後評価
3. 円借款事業における留学生・研修生の受け入れ
4. アドバイザリー(助言)業務
5. セミナー、ワークショップ開催への協力等
6. 途上国問題に係る講座への協力

最近の大学との連携事例

1. 事業の形成、実施、効果促進等を支援する調査(SAF)、その他調査

- チュニジア・テクノパーク建設事業: 案件形成の一環として、国立科学技術研究所と本邦大学との共同研究の可能性に係る調査(SAPROF:案件形成促進調査)
- 中国・貴州省における人材育成プログラム開発に係る調査: 大学・地方自治体・NGOを対象とした提案型調査(本年度よりフリー・テーマ枠を導入)
- ベトナム「保健医療サービス改善事業」に係る発掘型調査
- インドネシア「国立イスラム大学保健・医学部事業」(その他調査)

提案型調査の事例

◆中国・貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査

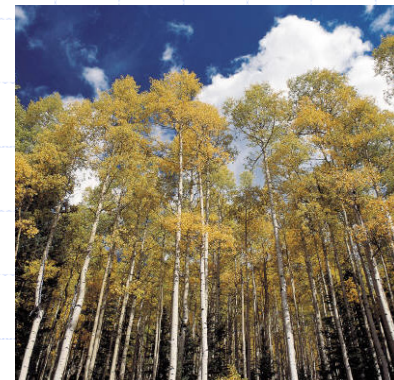
中国「貴州省環境整備・人材育成事業(円借款)」の研修ポジションへの活用を目的とし、日本の大学が貴州省の地方政府及び大学と共同で、環境教育、環境衛生等に関する人材育成プログラムを開発。

調査実施大学は、開発されたプログラムに基づき、中国から研修生を受入れ予定。

最近の大学との連携事例

2. 事業・プログラムの事後評価

- タイ「農業セクターローン」、ベトナム「中小企業支援事業」(事業評価)
- 中国「環境円借款貢献度評価」(プログラム評価)



円借款事業の事後評価の事例

- ◆ タイ「農業セクターローン」、ベトナム「中小企業支援事業」事後評価
 - DAC5項目（妥当性、効率性、有効性、インパクト、持続性）に基づく評価
 - 大学の知見を活用した特定テーマに関する評価
 - 統計的手法を活用し、ツー・ステップ・ローン（TSL）事業を通じた生産性への影響を評価

最近の大学との連携事例

3. 円借款事業における留学生・研修生の受け入れ

- マレーシア高等教育基金借款(HELP)
- インドネシア高等人材開発事業(Ⅲ)
- 中国内陸部・人材育成事業
<http://www.cj-hrd.jp/jp/index.html>
- インフラ事業等における人材育成プログラム

留学生・研修生の受入れの事例

◆ インドネシア「高等人材開発事業(Ⅲ)」

1. 事業概要

インドネシア地方・中央政府の政策企画・財政部門に携わる政府職員を対象に、日本への留学、国内での進学、両国での研修を実施し、高度な知識・技能を有する人材を育成

2. 大学連携

インドネシア国内での研修を経て来日する留学生(約800名)が日本の大学にて修士号もしくは博士号を取得するほか、短期研修生(約300名)が日本の大学や自治体等で研修を受ける。修士課程の一部及び博士課程には「リンケージ・プログラム」を導入予定。インドネシア側の4大学と日本の8大学が既に実施機関(BAPPENAS)との間で覚書を締結。

◆ 中国内陸部人材育成事業

1. 事業概要

2001年度から4年にわたり、22の省・市・自治区の計200大学を対象に円借款を供与(計1,035億円、うち研修部分計47億円)。ハード面の改善(校舎・設備等の整備)と、ソフト面の強化(中国側の教職員約3,700名の日本での研修、日本からの専門家派遣)を支援。

2. 大学連携

日本の大学や地方自治体等を受入機関とし、既に1,600名以上の中国教職員に対する研修を実施済。研修は、日本と中国の大学の学術交流協定に基づくもの、日本の大学が大学経営、環境保全、市場ルール活性化等、中国側のニーズを踏まえた分野の研修コースを開発して受け入れるなど様々な形で実施。

最近の大学との連携事例

4. アドバイザー業務

- ・ **ブラジル教育セクター調査におけるアドバイザー業務**
- ・ **インド「オリッサ州森林セクター開発事業」案件形成調査へのアドバイザー業務(防災林)**

最近の大学との連携事例

5. セミナー、ワークショップの共同開催等

- JBIC・世界銀行・アジア開発銀行共同調査
「東アジアのインフラ整備:その前進に向けて」
ワークショップ(コメンテーター)
- 日米大学間対話セミナー「農学国際協力における日米大学の連携を目指して」(パネリスト)

最近の大学との連携事例

6. 途上国問題に係る講座への協力

- ・JBICからの講師派遣
- ・カリキュラム・教材共同開発
 - －国際契約マネジメント講座カリキュラム・教材作成業務
- ・プロジェクト視察支援



カリキュラム・教材共同開発の事例

国際契約マネジメント講座カリキュラム・教材作成業務

国際契約に関する日本企業の管理能力の向上、及び適正な契約の執行による開発プロジェクトの効果の早期発現を目的とした国際開発プロジェクトの契約マネジメントに関する教育カリキュラムと教材を開発。

国際建設マネジメントの知見を有する大学と、開発コンサルタントがJVで実施。教材は国際契約マネジメントに携わる人材の育成を図るべく、国内外で活用予定。

円滑な連携のために

1. 相互理解の促進

- ①途上国ニーズの理解（開発課題に即した活動）、
②競争入札の原則、③大学の慣行）

2. 円滑な契約実施に向けて

- ①学内の体制整備（教育研究部門と事務部門の協力体制など）、②JBIC委託調査マニュアルの活用、③著作権、研究教育への活用に対する配慮）

3. コンサルタント、NGO、途上国の大学等の学外機関との協力の促進

JBICとのコンタクト

◆ 連携全般に係るご相談

→ プロジェクト開発部連携班にコンタクト(随時)

Tel. : 03-5218-9610 (班代表)

E-mail : 宮尾次長 “y-miyao@jbic.go.jp”

辛島調査役 “a-karashima@jbic.go.jp”

◆ 円借款の主要国向け業務概要(新規案件中心)

→ 「コンサルタント等との意見交換会」にご参加
(年2回開催)

◆ 提案型・発掘型案件形成調査にご関心

→ 「提案型・発掘型案件形成調査の説明会」にご参加
(年2回開催)

◆ 「円借款パートナーシップセミナー」へのご参加

→ H18年度テーマ: 中国「環境・人材育成」。募集: 15団体程度。